

# 【スポーツ振興事業】 経営分析・事業分析報告書

2025年3月  
都市ブランド創造局スポーツ振興課

# 目次

---

1. スポーツの価値・効果、社会情勢等 ……P3
2. スポーツ振興施策の現状 ……P4
3. スポーツ施設の現状 ……P8
4. スポーツ施設の管理 ……P14
5. スポーツ振興のねらい・方向性 ……P17
6. 「稼げるスポーツ」とはどのようなことか？ ……P18
7. スポーツの現状と課題認識【稼げるスポーツ】 ……P19
8. 課題に対する対策の方向性と具体案【稼げるスポーツ】 ……P20
9. スポーツの現状と課題認識【市民・地域スポーツ】 ……P24
10. 課題に対する対策の方向性と具体案【市民・地域スポーツ】 ……P25
11. スケジュール ……P29
  - 他都市事例 ……P31
  - APPENDIX ……P41

# 1. スポーツの価値・効果、社会情勢等

## スポーツの価値・効果

スポーツは、個人レベルでは心身の健全な発達や体力向上、健康寿命の延伸につながるだけでなく、スポーツを通じた達成感や爽快感を得ることができ、ストレス解消や精神的な充実感をもたらします。

また、社会レベルでは、地域コミュニティの強化、経済活性化、まちのにぎわいの創出にもつながります。

ほかにも、礼儀や協調性を学ぶことができる教育的価値や、スポーツを通じた国際交流による国際的価値など、多種多様な価値があります。

## 社会情勢等

国では、平成23(2011)年8月に施行された「スポーツ基本法」に基づき、令和4(2022)年3月に「第3期スポーツ基本計画」が策定されました。

この計画では、社会情勢の変化やスポーツを取り巻く環境に対応し、持続可能な社会の実現を目指していくため、「する」「みる」「ささえる」視点に加え、スポーツで「つくる／はぐくむ」、スポーツで「あつまり、ともに、つながる」、スポーツに「誰もがアクセスできる」といった新たな3つの視点が追加されました。

このような視点を踏まえ、持続可能な社会の実現を目指すべく、社会情勢等の変化をすばやく的確にとらえ、スポーツを推進していくことが求められています。

そして現在、人口減少・少子高齢化の進行をはじめ、新型コロナウイルス感染症の影響によるライフスタイルの変化、コロナ禍における東京オリンピック・パラリンピックが開催されたことなどにより、スポーツが社会活性化にもたらす価値を再認識することができました。

また、スポーツ庁は「モノ」から「コト」への国民の消費トレンドの変化や、東京オリンピック・パラリンピックなどの大規模国際大会の開催を契機としたスポーツ関連消費や投機が高まる機会を活かし、スポーツを「産業」の一つとして捉え、スポーツの「成長産業化」を目指しています。

## 2. スポーツ振興施策の現状 市の組織・体制(R6.4.1)

- ・都市ブランド創造局にスポーツ部スポーツ振興課を設置し、36名を配置。
- ・市民がスポーツに親しむ機会の創出や大規模国際スポーツ大会等を推進。
- ・スポーツ施設は、指定管理者制度により運営。

### 組織体制

スポーツ部 36 部長1 課長7 係長11 係員等17

#### ◆スポーツ部長

○スポーツ振興課長 — 企画係長—5  
事業調整担当係長  
スポーツ振興係長—4  
スポーツ振興担当係長

○インターハイ担当課長 — インターハイ担当係長

○スポーツコミッション担当課長 — スポーツコミッション係長—2

○スポーツイベント担当課長 — スポーツイベント担当係長—2  
スポーツイベント担当係長

○スポーツイベント担当課長

○スポーツ施設担当課長 — 施設管理係長—2  
計画担当係長—1  
整備担当係長—1

○ギラヴァンツ北九州担当課長

協働  
パートナー

スポーツ  
協会

総合型  
地域スポーツ  
クラブ

トップ  
アスリート

プロスポーツ

企業  
スポーツ

国・県

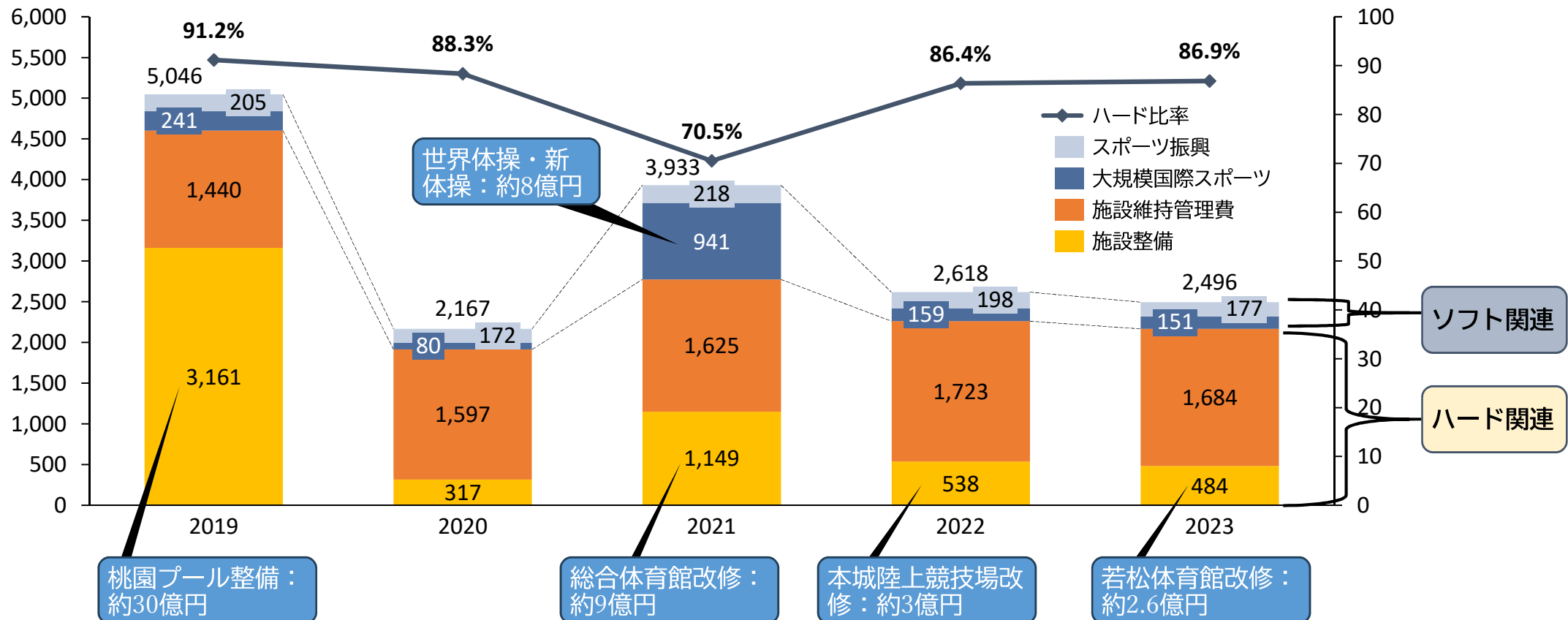
指定管理

市内の  
スポーツ施設

## 2. スポーツ振興施策の現状 スポーツ振興施策決算の推移

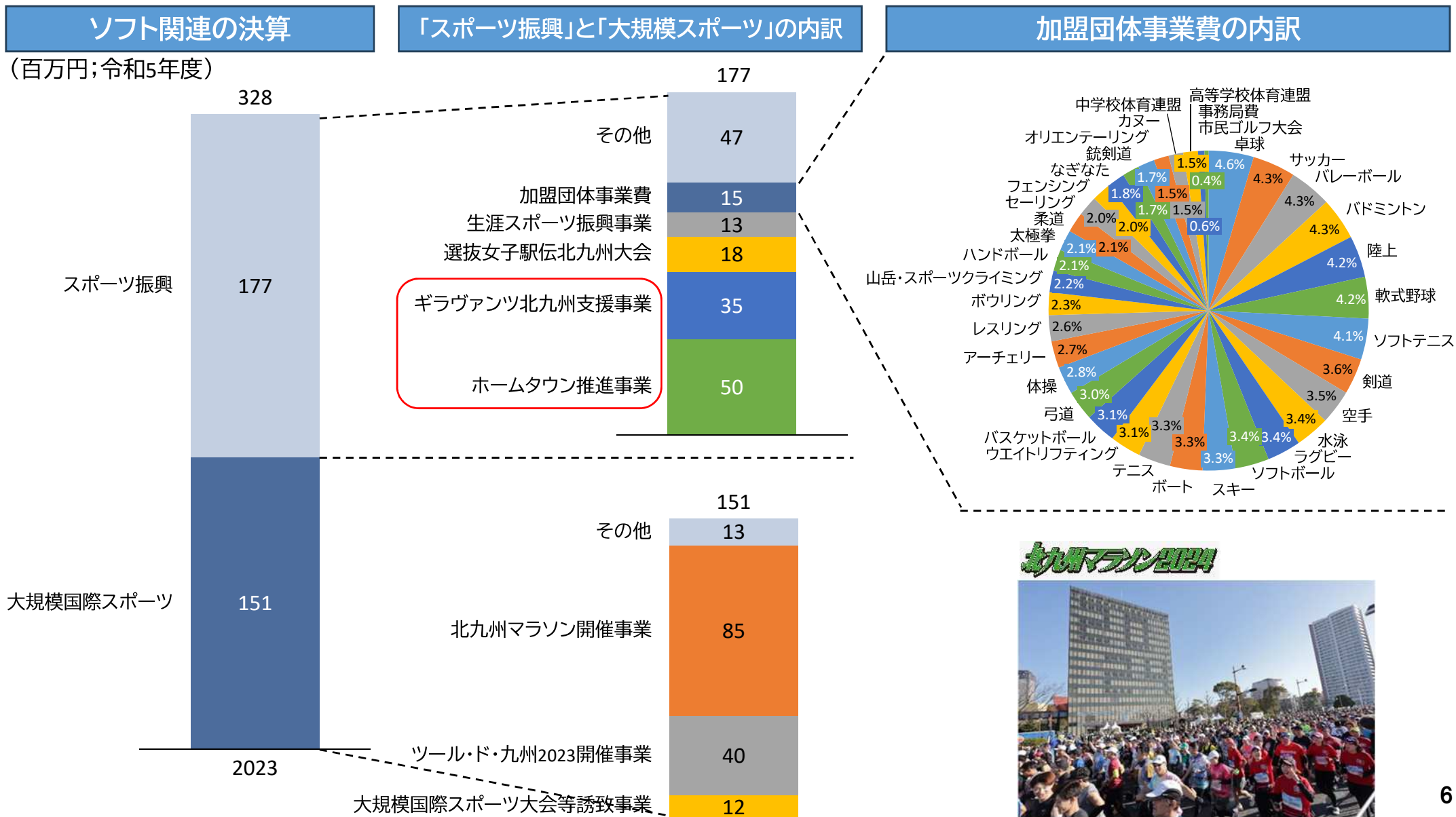
- スポーツ振興課の決算のうち、施設整備と施設維持管理費(ハード関連)に係る割合は8割程度と大きく、今後は施設の老朽化の進展により、ハード関連経費の更なる増加が見込まれる

スポーツ振興の決算の推移 (百万円)



## 2. スポーツ振興施策の現状 ソフト事業決算の内訳(令和5年度)

- ソフト事業の予算のうち、ギラヴァンツ関連が75百万円、北九州マラソン開催事業が85百万円等、大きな支出項目は決まっている一方で、各加盟団体への補助金等は分散している



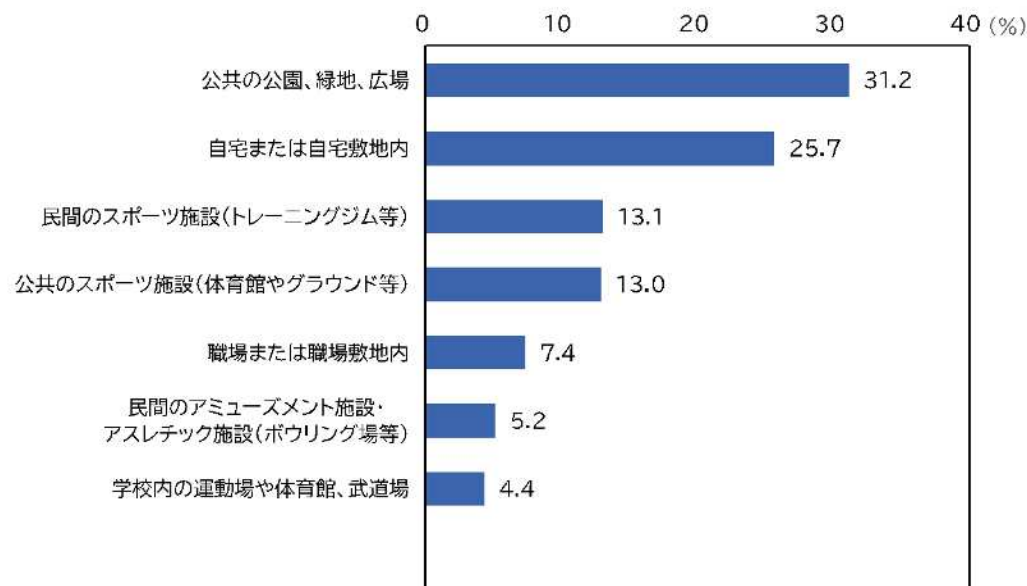
## 2. スポーツ振興施策の現状 北九州市民スポーツ実態調査

- ・健康づくりに関心が高い層などを中心に、身近な公園などで気軽にスポーツに親しむ市民が多い。
- ・スポーツ観戦に関心がある市民は多いものの、実際に競技場でスポーツを観戦した市民は減少。

項目	内容
調査対象	市内に居住する満18歳以上(令和5(2023)年1月1日現在)の男女
標本数	3,000人(住民基本台帳から無作為抽出) 回答数:1,016人 回答率:33.8%
調査方法	郵送・Webによるアンケート調査
調査時期	令和5年2月～3月

### 問:運動・スポーツを行った場所

運動・スポーツを行った場所については、「公共の公園、緑地、広場」が 31.2%と最も多く、次いで「自宅または自宅敷地内」が 25.7%、「民間のスポーツ施設」が 13.1%となっています。



### 問:実際に競技場でスポーツの試合を見たいか

スポーツ観戦の意向については、「どちらかといえば見たい」が 32.2%、次いで「見たい」が 29.2%となっており、合計した観戦に興味がある人は 61.4%となっています。



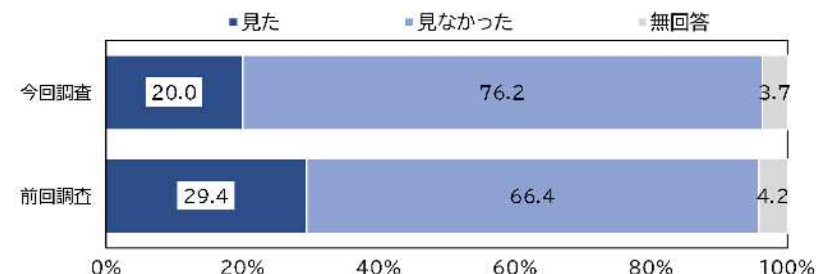
### 問:競技会場でスポーツの試合を観戦したか

#### 【 全体の特徴 】

1年間の競技会場でスポーツ観戦については、「見た」が 20.0%、「見なかった」が 76.2%となっています。

#### 【 前回調査との比較 】

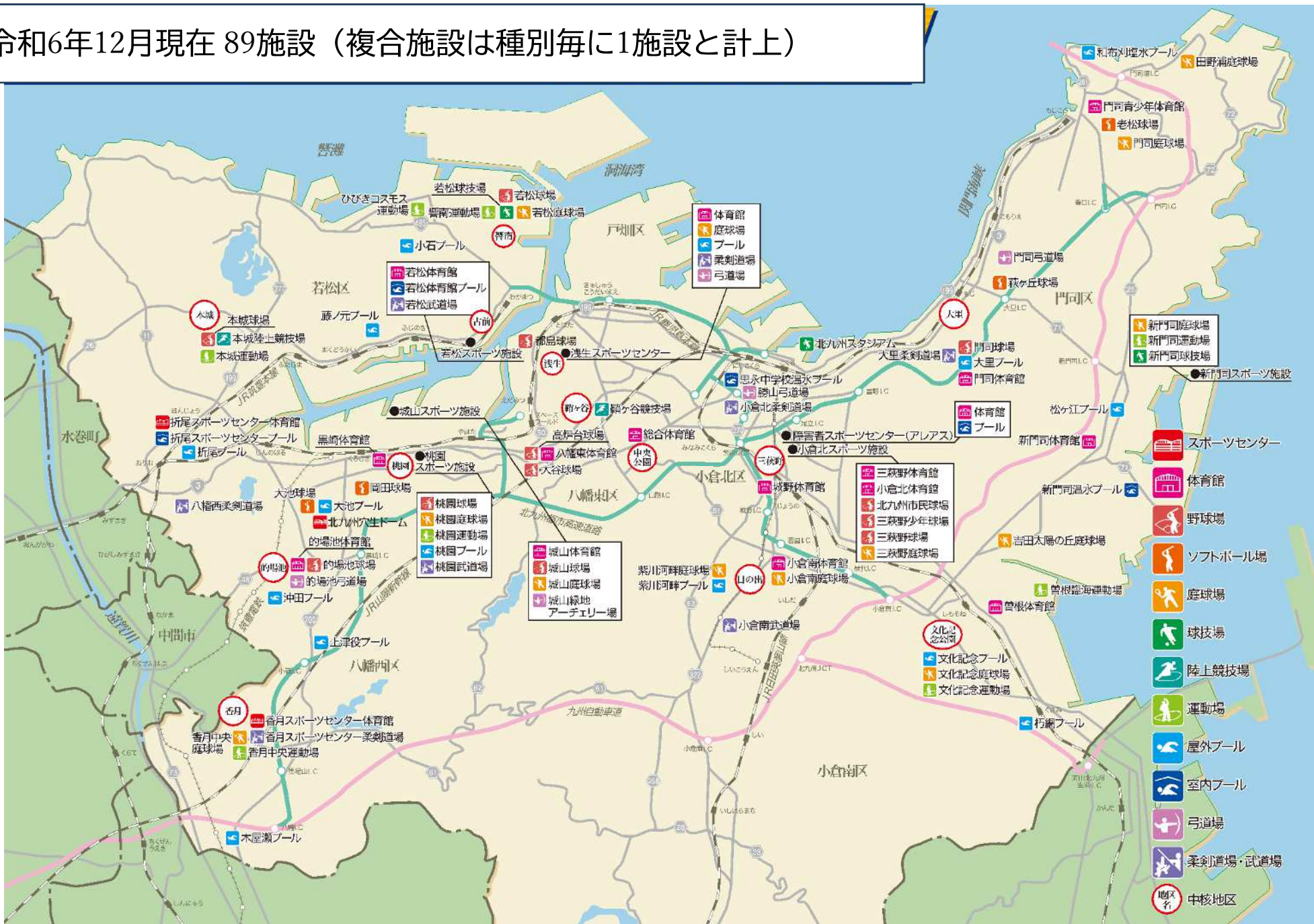
前回調査と比較すると、「見た」が前回調査より 9.4 ポイント減少、「見なかった」が 9.8 ポイント増加となっています。





## 市内スポーツ施設の分布

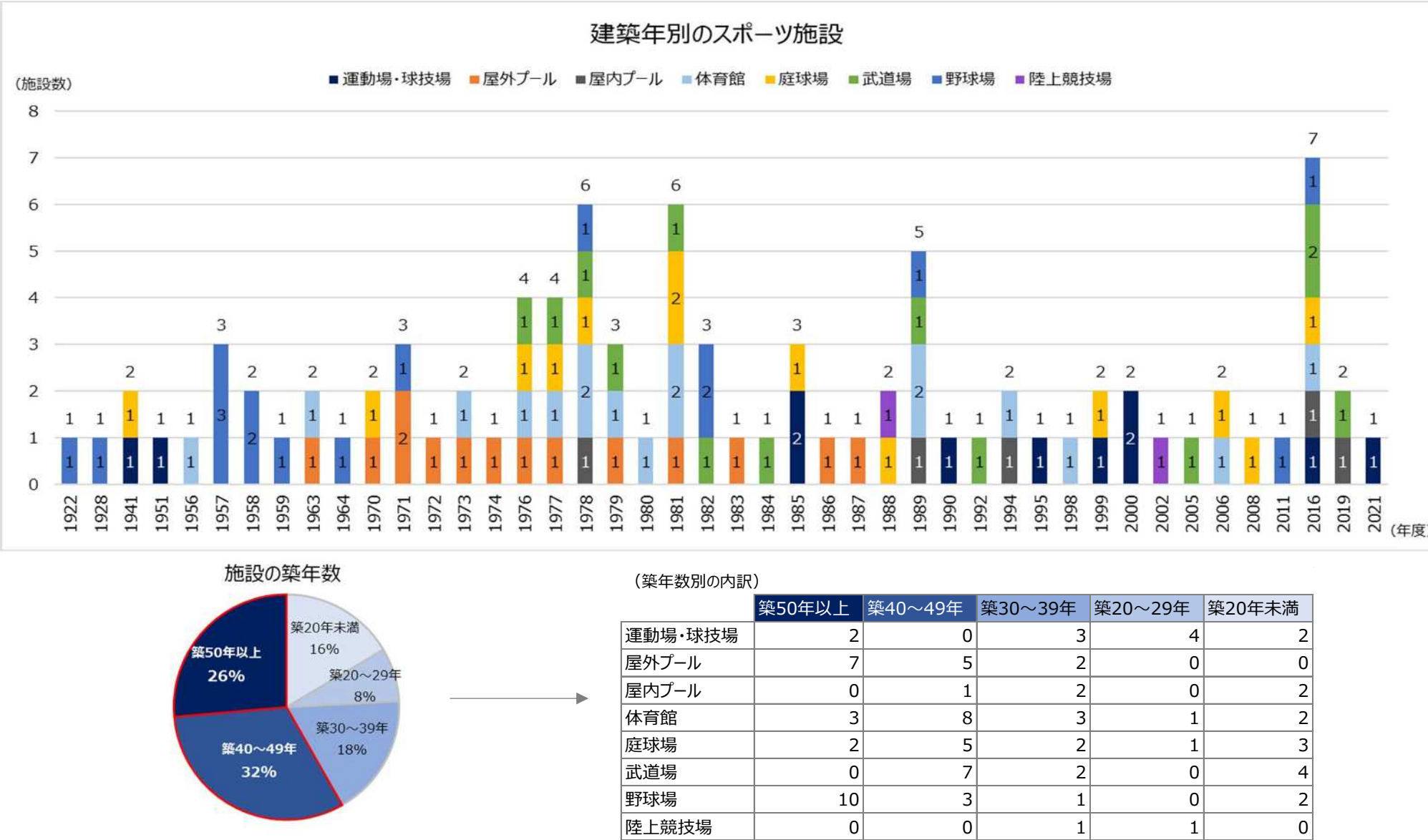
令和6年12月現在 89施設（複合施設は種別毎に1施設と計上）





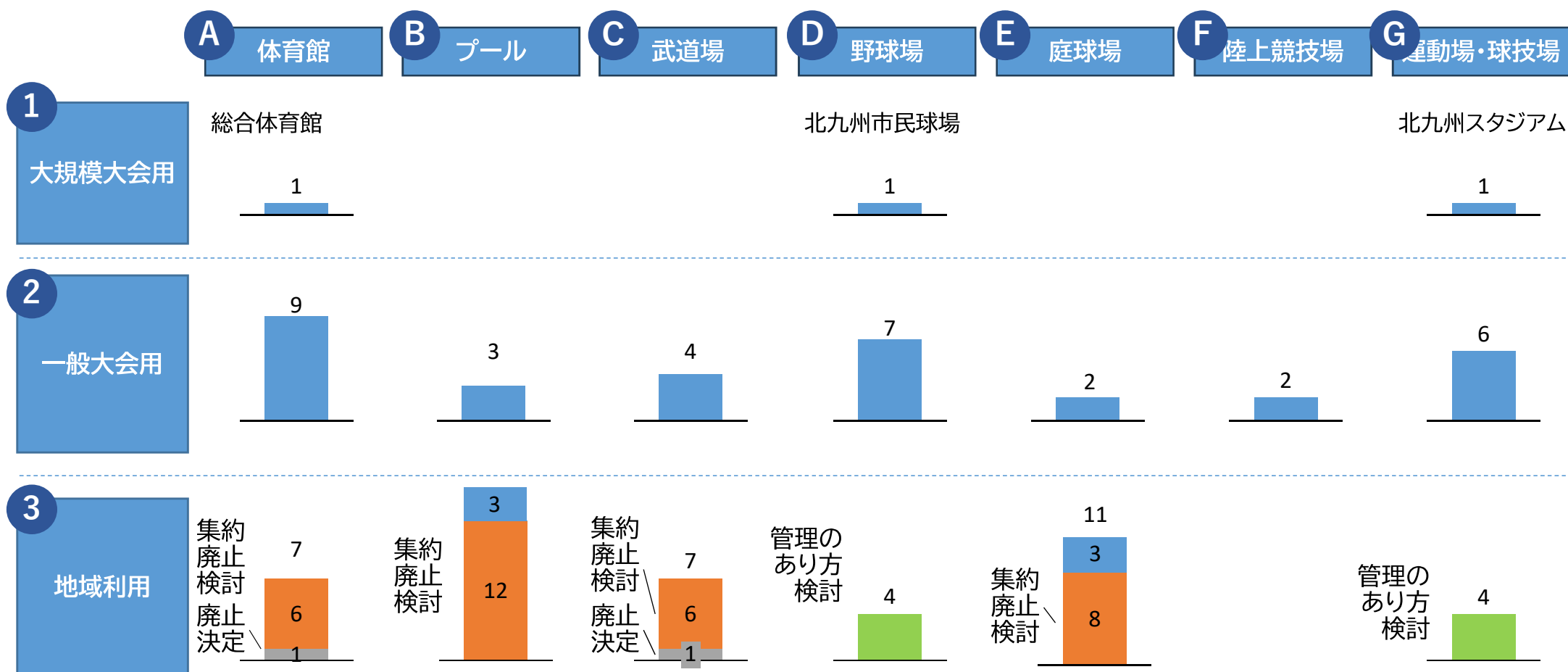
### 3. スポーツ施設の現状      スポーツ施設の築年数

・築年数が40年を超える施設が過半数を占めるなど、老朽化が進んでおり、今後、新しい公共施設マネジメントの考え方にに基づき施設の最適化に向けた検証を実施予定。



### 3. スポーツ施設の現状 規模別・用途別スポーツ施設数

- 特に、体育館、プール、武道場、庭球場については、地域利用施設の廃止決定、廃止検討、集約検討が公共施設マネジメント実行計画(H28)の中で定められている
- 第3回X会議「公共施設マネジメント」の討議を受けて、各施設の問題点を利用者の目線で洗い出し、公共施設の最適化を検討する



出典: 北九州市公共施設マネジメント実行計画(H28)、公共施設白書(令和5年度状況)  
 武道場について、複合施設は、1施設として計上

### 3. スポーツ施設の現状 規模別の施設運営の方針

- 規模別の施設運営は、公共施設マネジメント実行計画(H28)の中では、大規模大会用施設は存続、一般大会用施設は再配置や集約の拠点として再整備、地域利用施設は他施設への集約等が主な方針として掲げられている

#### 定義

#### 公共施設マネジメント実行計画(H28)における方針

1

#### 大規模大会用

- 国際・全国大会などの大規模大会を誘致可能とする拠点施設
  - 所要の公認・正規規格の確保に留意
- 全3施設
  - 総合体育館、北九州市民球場、北九州スタジアム(ミクニワールドスタジアム北九州)

- 国際・全国大会などの大規模大会の誘致・開催は、まちの知名度やイメージアップのほか、集客力向上等に伴う経済効果を生み、まちのにぎわいづくりや活性化につながる
- このため、大規模大会を開催できる施設は存続を図る

2

#### 一般大会用

- 県・市内大会などの一般競技大会施設
  - 開催に必要な施設量の確保に留意
- 全33施設

- 一般競技大会の施設は、大会用の施設として、また、利用者の身近な施設として広く活用される
- したがって、更新時期を迎えたものは、再配置や集約の拠点として再整備を行うなど、適正規模の確保を図る

3

#### 地域利用

- 日頃の練習や健康づくりの場としてのその他施設
  - サービス水準を維持することに留意
- 全48施設

- 日頃の練習や健康づくりの場としてのその他施設については、他施設への集約、利用の効率化や学校・民間施設の活用などにより集約等を行いつつ、サービス水準の維持を図る

### 3. スポーツ施設の現状      スポーツ施設の利用状況ー1

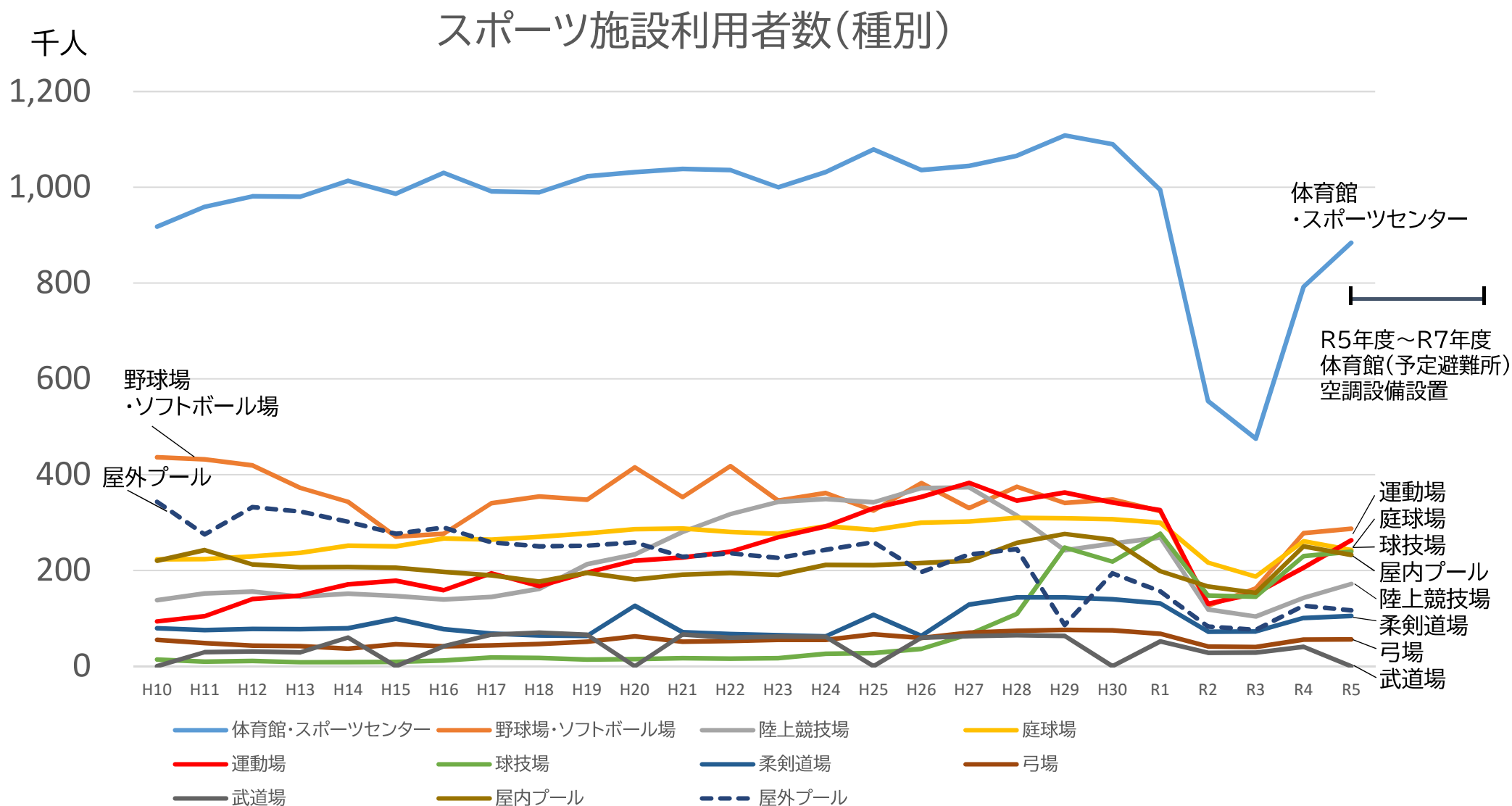
スポーツ施設(全体)の利用者数は、緩やかな増加傾向で推移していた。  
コロナの影響で一時減少したが、令和5年度時点でコロナ前(平成30年度)の約80%まで回復している。



### 3. スポーツ施設の現状

### スポーツ施設の利用状況ー2

種別の利用者数は、概ね緩やかに増加もしくは、横ばいで推移している。減少傾向がみられるのは、屋外プールで平成10年度からの25年で利用者数は半数以下となっている。





## 4. スポーツ施設の管理 指定管理者

利用者満足度  
**94%**

平成16年度以降、段階的に対象を拡大し、

全89施設中88施設に指定管理者を導入済み

民間ノウハウの活用

響南運動場を除く

令和6年度公募

指定管理者制度の見直しに合わせ  
指定管理施設(対象施設)のグループを見直し

効率的な施設運営  
公園との一体管理

8件※の募集のうち4件に対し、複数事業者が応募  
学識経験者等による検討を経て事業者を選定

意欲ある  
多様な事業者の参画  
多彩な事業提案

指定管理者による多彩な自主事業等により  
「施設の利用促進」 「多様化するニーズへの効果的な対応」  
を実現

※複数施設からなるグループを1件とする

## 4. スポーツ施設の管理

### 指定管理者選定結果(令和6年度公募)

全87施設中85施設について、指定管理者の公募を実施(北九州スタジアム及び響南グラウンドを除く)  
北九州スタジアムは、指定管理期間が令和14年3月31日まで。三萩野少年球場及び文化記念運動場については、管理運営を公園部局に移管

対象施設	選定結果 (R 7 ~ R 1 1)	
	指定管理者	応募状況
東部地域スポーツ施設 (27施設)	北九州スポーツネットワーク 共同事業体	説明会参加：3団体 応募件数：1団体
西部地域スポーツ施設 (28施設)	公益財団法人北九州市スポーツ協会	説明会参加：1団体 応募件数：1団体
本城・的場池公園内スポーツ施設 (6施設)	株式会社スピナ	説明会参加：3団体 応募件数：1団体
桃園公園・城山地区スポーツ施設 (13施設※)	スピナ・シンコースポーツ共同事業体	説明会参加：3団体 応募件数：1団体
文化記念・曽根臨海公園内スポーツ施設 (3施設)	総合緑地建設株式会社	説明会参加：2団体 応募件数：2団体
浅生スポーツセンター (5施設)	戸畑スポーツ文化ランドデザイン	説明会参加：3団体 応募件数：2団体
新門司地区スポーツ施設 (3施設)	NPO法人北九州フットボールクラブ	説明会参加：3団体 応募件数：2団体
北九州市民球場・三萩野球場 (2施設)	北九州野球株式会社	説明会参加：3団体 応募件数：2団体

※桃園公園、桃園公園駐車施設を含む 15

## 4. スポーツ施設の管理 民間ノウハウを活かした施設の利用促進の取組

### 指定管理者による多彩な自主事業

多種多様なスポーツ教室や健康教室 **380教室**以上(令和6年度実施予定数)

- 子ども向けのスポーツ教室（陸上、体操、ダンス、テニス、水泳など）
- 女性に人気の教室（ヨガ、ピラティスなど）
- 親子向け教室（親子体操、ベビーマッサージなど）
- シニア向け教室（健康教室など）

新たな取り組み(令和7年度以降実施検討)

柔軟な運用による  
施設の利用促進

#### 【施設の有効活用】

- 剣道場でのダンス教室や柔道場での茶育教室を実施
- 施設の供用時間を延長して夜間教室を実施（テニスや水泳など）

#### 【地域の賑わいづくり】

- スポーツ大会時に公園を活用してイベントを開催  
(キッチンカーイベントなど)

公園との一体利用による  
賑わい創出

## 5. スポーツ振興のねらい・方向性

### 北九州市スポーツ推進計画における位置づけ

- スポーツ＝**まちのにぎわいを創出するエンジン**
- 『スポーツで稼げるまち』を実現し、「**豊かな未来輝く市民生活**」と「**まちの成長**」の好循環につなげていく



「稼げるスポーツ」と「市民・地域スポーツ振興」の2つの視点を踏まえ、持続可能なスポーツ振興を図っていく。

	① 稼げるスポーツ	② 市民・地域スポーツ
効果・狙い	<ul style="list-style-type: none"><li>●大規模国際スポーツ大会誘致・開催 ・トップレベルの試合観戦・アスリートの集結 →集客・賑わい創出：地域経済の振興 →国内外へのシティプロモーション効果</li><li>●プロスポーツの振興 →持続的な市内外集客 →シビックプライド醸成 など</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>●成人・高齢者・地域 ・市民の健康維持と暮らしの潤い創出 ・地域及び関係コミュニティの形成、活性化</li><li>●子ども ・スポーツを通じた心身の発達、育成 ・コミュニケーション能力等、人間形成 ・アスリートへの夢 など</li></ul>

## 6.「稼げるスポーツ」とはということか？

『稼げるスポーツ』基本的な考え = 観客数だけでなく、消費額に寄与する取組等

### 観客(来北者)数を増やす

#### 来場者数

- \*大規模スポーツ大会等の誘致と地元競技育成
- \*既存施設を活用した集客種目の誘致重点化
- \*本市ホームプロチームの人気アップ  
(特にギラヴァンツのJ2・J1への昇格を目指す)

×

### 市内での消費拡大

#### 消費額

- \*宿泊・飲食・お土産・観光→商業・交通事業者等との連携
- \*ダイナミックプライシング、タイアップ・クーポン
- \*プラス1泊、プラス1食の働きかけ(夜朝のコンテンツ)
- \*会場内外での付随イベントの充実



### 国際大会等の魅力を引き出す環境

#### 施設のポテンシャル

- \*既存施設のグレードアップ  
(ミクスタ・総合体育館・西展ほか)

#### 異次元の変革プラン

「稼げる」に特化した多目的**新アリーナ**の整備  
(小倉駅徒歩圏内、エンタメ利用、都市のシンボル施設)

### 継続的な開催誘致

#### 戦略的な誘致・実施組織構築

- \*スポーツコミッションの組織体制の強化
- \*国内外のキーとなるスポーツ関係者や団体との関係強化
- \*市役所内&地域の産学官との連携
- \*大会運営への地元事業者の参入促進
- \*スポーツを通じた都市ブランド・都市イメージの発信  
(サステナブル、女性・子ども・若者応援、クリエイティブ...)



## 7. スポーツの現状と課題認識

## 【稼げるスポーツ】

	現状・これまで	主な課題認識
ソフト面	<p>【大規模大会への心がけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大会成功に向け円滑な運営</li> <li>・会場内の集客・賑わい</li> </ul> <p>【プロスポーツへの意識】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チームへの側面的支援</li> </ul> <p>【誘致体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市役所職員による誘致・パイプ作りなど</li> </ul>	<p>【大規模大会への意識】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大会の円滑運営を優先→観客向け周遊施策：弱。</li> <li>・他のイベントとの連携の意識：薄。</li> <li>・民間などとの連携：弱。</li> </ul> <p>【プロスポーツとの関わり】</p> <p>民間事業→一定の距離感を保つ傾向</p> <p>【体制の課題】</p> <p>異動による人脈の変化、年度ごとの予算に縛られる財源の確保が課題。</p>
ハード面	<p>○総合体育館、ミクスタを主軸に誘致・開催</p> <p>○コンベンション施設である「西日本総合展示場」を目的外使用→アクセスの良さで注目。</p>	<p>【総合体育館】</p> <p>小倉駅から遠く、二次交通が必要。 周辺への経済的効果の広がりが弱。 館内までのアプローチ：遠く急坂 等</p> <p>【西日本総合展示場】</p> <p>老朽化。大規模開催時の深刻な女性トイレ不足。 天井高の低さなど、エンタメ性の高まるスポーツイベントへの対策が急務 等</p>

## 8. 課題に対する対策の方向性と具体案 **【稼げるスポーツ】ソフト面**

### 【大規模大会】

- ・他イベントとの連携など大会開催による「賑わい」範囲の拡大
- ・サステナブルな意識を高めた大会運営を提案
- ・多彩な大会の誘致及び実績を重ね、聖地化を目指す

#### **\* インパクトある大会開催** ◁ **好循環** ▷ **都市や競技施設のブランド力向上**

→ ターゲット: 市内外の老若男女(ホリウムゾーン)

→ 女性客拡大に向けた観戦誘導策(仮: 初心者向け動画配信など)の実施

#### **\* 大会誘致+パーク&ストリートのシーン充実で若者カルチャーに刺激(アーバンスポーツの聖地化)**

→ ターゲット: 市内外の若者世代を中心とする高感度層(アーリーアダプター)

### 【プロスポーツ】

- ・市施策と連動した連携(環境、地域など)

#### **\* ギラヴァンツ北九州とのサステナブル連携強化**

### 【誘致体制】

- ・スポーツコミッション体制の強化に向けた組織の在り方について、先進都市の体制も参考に検討を進める。

#### **\* スポーツコミッションの機能強化の検討(民間との連携強化など)**

# 大規模国際スポーツ大会等の誘致・開催

## ■大規模国際スポーツ大会の誘致・開催＝まちの活性化の推進(プラス1泊、プラス1食)

- 観光・文化とのコラボ
- 交流人口の増加
- 都市のプレゼンスの向上 など



## ■エコフレンドリーな大会運営サポート＝都市のブランド力の向上

- ミールチケットの配布(フードロス対策:関係者の弁当廃止)
- キッチンカーのサステナブル化:各店舗が独自にエコな取組を実施(プラ不使用、竹箸使用など)
- 電気のサステナブル化:北九州市産の電気を一部使用 など

# アーバンスポーツの聖地化

北九州市が目指すもの→**アーバンスポーツの聖地**

ストリートを起源とするアーバンスポーツをパークからストリートに取り戻し、  
街と音楽、ファッションと融合させ、アーバンスポーツのポテンシャルを最大限に引き出し、**スポーツで街が賑わう**

## 聖地化・エコシステムに必要なコンテンツ

- ① アーバンスポーツをパークからストリートへ
- ② アーバンスポーツの国際大会、ジュニアなどの大会誘致
- ③ トップアスリートの養成、トップコーチの招聘、育成



## 8. 課題に対する対策の方向性と具体案 **【稼げるスポーツ】ハード面**

### 【総合体育館】

- ・都心とのアクセス向上に向け、交通事業者との連携強化
- ・大会開催時の駐車場、障がい者、高齢者などの入館導線の改善検討

**\* 交通事業者との連携強化**

**\* 総合体育館の動線改善(入館前の乗降機能・入車制限の改善など)**

### 【西日本総合展示場】

- ・老朽化した本館の在り方検討及び主催に選ばれる新館の施設力改善

### 【ミクニワールドスタジアム】

- ・集客が見込める大規模大会の聖地化及びさらなる集客促進に向けた運用

**\* 西日本総合展示場新館の女性トイレ増設**

**\* ラグビーディビジョン1の定例開催の誘致**

**\* 他都市で開設が進む多目的アリーナ整備の検討 ※要他局連携**



## 9. スポーツの現状と課題認識

### 【市民・地域スポーツ】

	現状・これまで	課題認識
ソフト面	<ul style="list-style-type: none"> <li>○競技団体、クラブや学校などの競技主体(民間)の要請にもとづき支援・協力</li> <li>○スポーツ観戦を主体とした、市民がスポーツに接する機会の創出</li> <li>○団体主催の大会への支援や競技団体と連携したスポーツイベントの開催 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○競技団体の自主的な活動に競技の振興を委ねている。指導者不足等の課題は認識。</li> <li>○観せることに主眼、スポーツを「すること」に対するアプローチが薄い。</li> <li>○競技を行っている特定の団体・市民との関係性が強く、スポーツに縁の薄い一般市民との接触機会は弱い など</li> </ul>
ハード面	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市内施設への市民利用を効率的に調整 →多くの団体に平等に利用をしてもらうため、事前登録・団体利用を基本とし、一部の施設では個人用の「共用枠」を設定。</li> <li>○ほぼ100%の施設に指定管理制度を導入。 ・一部の施設利用予約にネットを導入 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○利用者目線というよりも、利用調整・不正防止に主眼を置いた運用 →個人利用や分割利用が多い体育館などにネット予約システム未導入。</li> <li>○減免割合が高く、利用料金制など指定管理者の意欲が高まりにくい。</li> <li>※スポーツ関連予算の約85%が施設関連。 約6割が築40年、うち約半数が築50年以上。</li> <li>※高い高齢者利用率なども踏まえ、より柔軟で効果的な施設運営が必要 など</li> </ul>

## 9. 課題に対する対策の方向性と具体案 **市民・地域スポーツソフト面**

### 【競技活動の振興】

- ・大会誘致や日頃の活動に関する課題など、競技団体と情報共有の強化
- ・部活の地域移行等も見据え、指導者不足の解消対策を検討

**\* 仕事をしながらスポーツ活動に関わる(指導)環境づくり(アスリートのセカンドキャリア)**

→プラットフォームの構築やUターン施策との連携

### 【市民のスポーツ競技参画の促進】

- ・競技団体だけでなく、日頃スポーツに接しない方含め、すべての市民に対し、観ることに加え、“スポーツをする”ことを促進
- ・特に、女性がスポーツに接しやすくする環境づくり、および障がい者がスポーツに参画しやすい場づくり

**\* インクルーシブスポーツ、アーバンスポーツを通した市民皆スポーツの推進**

→インクルーシブスポーツ・アーバンスポーツイベントの開催

→市内職場対抗スポーツイベントの実施及び地域でのスポーツ推進

**\* 女性客拡大に向けた観戦誘導策(仮:初心者向け動画配信など)の実施(再掲)**

**\* プロスポーツ選手との地域交流促進事業の展開**

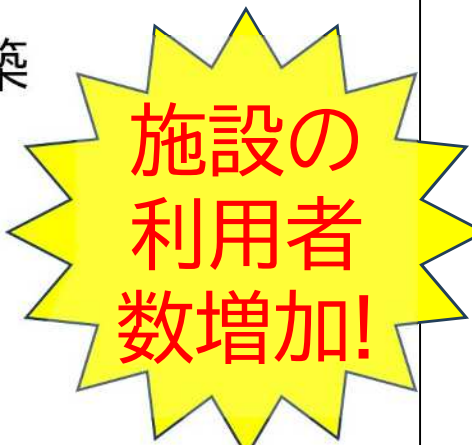
## 9. 課題に対する対策の方向性と具体案 市民・地域スポーツハード面

### 【施設予約・利用の仕組みについて】


- ・初めての個人利用者にも気軽に使いやすい予約の仕組みを構築
- ・ネット予約システムの拡張や利便性向上に向けた改善

### 【指定管理者】

- ・指定管理者の意欲喚起に向けた目標設定や施設運用の改善
- ・より効率的な施設管理手法の推進



施設の  
利用者  
数増加!

- 
- \* 新たなネット予約システムの導入検討(個人予約の仕組み改良も同時並行)
  - \* 施設管理の無人化検討(QRコードで予約・利用管理 など)
  - \* ニーズに応じた開館時間の柔軟化検討
  - \* 公園のスポーツ利用の検討(市内モデル公園の設定)

# スポーツ施設の利用者数増加に向けた「クイックアクション」

## ■新スポーツ施設ネット予約システムの導入

(導入イメージ)

### <現状>

- ・ID登録は**窓口申請**
- ・予約の対象は、**団体利用のみ**(10名以上)
- ・予約対象施設は、主に団体競技用の屋外施設(野球場、運動場、球技場、庭球場)のみ  
→**体育館を含む屋内施設は対象外**

### <DXの加速>

- ・ID登録は**ネット申請**
- ・予約の対象を**個人にも拡大(テニス場など)**
- ・予約対象施設を**体育館を含む屋内施設にも拡大**

**R7年度内 全庁的な導入**  
(デジタル市役所推進室)

## ■ニーズに応じた開館時間の柔軟化検討

- ・屋内プール、テニス場の**開館時間の拡大**(新しい指定管理者と協議・調整が必要)

アフターファイブの利用者ニーズを踏まえた夕方以降の時間延長等

例)第一警備スポーツセンター戸畑

屋内プール:20時⇒20時30分 テニス場:19時(ナイターなし)⇒21時(ナイターあり)

## 10. スケジュール 【稼げるスポーツ】

区分	方向性	令和6年度	令和7年度	令和8年度
ソフト	【大規模大会】 ・「賑わい」範囲の拡大 ・さらなるエコフレンドリーの提案 ・アーバンスポーツの聖地化	・各大規模国際スポーツ大会の誘致・開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的な大規模大会の開催による聖地化</li> <li>・アーバンスポーツの聖地化推進</li> <li>・ワールドスケートボード開催</li> <li>・アーバンイベント実施</li> </ul>	
	【プロスポーツ】 ・市施策と連携(環境、地域など)	・エコフレンドリーな取組を推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ギラヴァンツ北九州とのサステナブル連携強化</li> <li>・プロスポーツ選手と市民のふれあい機会増加</li> </ul>	
	【誘致体制】 ・スポーツコミッションの体制強化	・スポーツコミッションライン新設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツコミッションの機能強化の検討</li> <li>・民間との連携強化</li> </ul>	
ハード	【総合体育館】 ・都心とのアクセス向上 ・ユニバーサルデザイン改善	・施設のユニバーサルデザイン改修等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関口等の改良(入館前の乗降・入車制限の改善)</li> <li>・女性にコンフォートな空間を検討・提供 など</li> </ul>	
	【西日本総合展示場】 ・本館の在り方、新館の施設力改善	・西展を活用した大規模スポーツ大会の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性トイレの増設</li> <li>・多目的アリーナ整備の検討 ※他局連携必須</li> <li>・女性にコンフォートな空間の検討・提供(女性トイレの増設等)</li> </ul>	
	【ミクニワールドスタジアム】 ・大規模大会の聖地化、集客促進	・ミクスタを活用した集客性の高いプロスポーツ大会の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラグビーディビジョン1の定例開催の誘致</li> </ul>	



# 10. スケジュール 【市民・地域スポーツ】

区分	方向性	令和6年度	令和7年度	令和8年度
ソフト	<b>【競技活動の振興】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の活動に関する課題の共有</li> <li>・指導者不足の解消対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域、生涯スポーツ活動の普及・支援</li> <li>・指導者養成講座等の実施</li> <li>・アスリートのセカンドキャリア現状確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Uターン施策との連携：アスリートのセカンドキャリア</li> <li>・指導者（アスリート）のプラットフォーム構築等</li> </ul>	
	<b>【市民のスポーツ競技参画の促進】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての市民に対し見ることに加え“スポーツをする”ことを促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インクルーシブスポーツの推進</li> <li>・北九キッズスポーツマンズプロジェクトの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性<sup>女性</sup>のスポーツ参加機会の拡大</li> <li>・インクルーシブ・アーバンを通じた市民皆スポーツ<sup>市民皆スポーツ</sup>の推進</li> <li>・プロスポーツ選手との地域交流促進事業の展開</li> <li>・女性客向け動画配信</li> </ul>	
ハード	<b>【指定管理者】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲喚起に向けた目標設定</li> <li>・施設運用等の改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな指定管理者の選定</li> <li>・指定管理範囲の見直し（公園エリアの一体利用等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園のスポーツ利用の検討（市内モデル公園の設定）</li> <li>・モデル公園の選定</li> </ul>	
	<b>【予約・利用の仕組み】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気軽に使いやすい予約手続き</li> <li>・ネット予約システムの拡張</li> <li>・システムの利便性向上</li> <li>・効率的な施設管理手法の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館の予約システムの実証実験</li> <li>・個人利用の区分見直しの検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設管理の無人化等検討（QRコードで予約・管理など）</li> <li>・新たなネット予約システムの導入</li> </ul>	

## 他都市事例

# 他都市事例(さいたま市の取組)

- ・スポーツで地域経済を活性化する推進エンジンとなる組織として(一社)さいたまスポーツコミッションを設置。市や民間企業との協働のもと、スポーツによるまちづくりを実施

## さいたまスポーツコミッション SAITAMA BE HAPPY SPORTSスポーツ先進都市づくりを、わたしたちと共に

- 名称:(一社)さいたまスポーツコミッション  
(略称:SSC)
- 設立:2018年12月10日(法人化)
- 目的:スポーツ資源・観光資源を活用し、  
各種競技大会やスポーツイベント誘致等  
を通じ、スポーツ機会の創出・地域活性化
- 組織体制:理事会のもとに置かれる事務局は、  
事務局長以下23人体制。

事務局 23人体制

事務局長  
事務局次長



経営管理課

(5人・うち市派遣2人)

・総務・広報・マーケティング  
・新規事業企画 など

事業企画課

(7人・うち市派遣1人)

・大規模大会等誘致・支援  
・アバスポさいたま運営 など

サイクル事業課

(9人・うち市派遣3人)

・ツール・ド・フランス クリテリウム等自主事業の実施 など

## 行政との関係

さいたま市

### ◆ 公益的なスポーツ政策の推進

- ◎ 公益事業の委託
- ◎ 公益的事業への補助
- ◎ 行政内部の連携事業の推進
- ◎ 議会等を通じた説明
- ◎ 国・団体等との折衝

連携協力

スポーツコミッション

### ◆ 市と連携したスポーツ政策の推進

- ◎ 対象や内容を絞った収益事業
- ◎ 共同開発やJV事業の実施
- ◎ 時機に応じた柔軟な予算運用
- ◎ 需要に応じた拡張性や成長力
- ◎ 実績と先進性に基づく発信力



さいたま市

ももさいたまスポーツも。



Saitama Sport Commission

## 正会員

J:COM

株式会社ジェイコム埼玉・奥日本



URAWA REDS

浦和レッドダイヤモンズ株式会社



OMIYA ARDIA

大宮アルディージャ

(エヌ・ティ・ティ・スポーツコミュニティ株式会社)



Cygames

株式会社Cygames



エコ計画

株式会社エコ計画



近畿日本ツーリスト

近畿日本ツーリスト株式会社



埼玉縣信用金庫

埼玉縣信用金庫



埼玉りそな銀行

株式会社埼玉りそな銀行



日本旅行

株式会社日本旅行



ヒート・コミュニケーションズ

株式会社ヒート・コミュニケーションズ






武蔵野銀行

株式会社武蔵野銀行

・その他、パートナー会員35社(2024年時点、SSC提供資料より)

# 他都市事例(さいたま市の取組)

・首都圏に位置するとともに、大規模なスポーツ施設の充実や、サッカーをはじめとしたプロやアマチュアのトップチームの活動などスポーツ資源に恵まれた強みを生かし、スポーツで地域経済の活性化を実現

スポーツイベントの開催	アバスポさいたま	スポーツイベントの誘致・支援																																																																																														
<p>○2024ツール・ド・フランス クリテリウム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日時:令和6年11月2日</li> <li>・場所:さいたま新都心駅周辺</li> <li>・内容:</li> </ul> <p>(1)クリテリウムレース(海外招聘選手、国内選手によるレース)</p> <p>(2)タイムトライアルレース</p> <p>(3)コース及びイベント会場での一般参加体験イベント</p> <p>(4)海外招聘選手との交流 など</p>  <p>○さいたまマラソン</p> 	<p>○子育て世代を対象としたアーバンスポーツ体験イベントを定期的開催</p> <p>※「アバスポふらっと野田小プール」 初心者や子育て世代の親子がアーバンスポーツを楽しむための、傾斜等のないフラットな空間</p> <p>&lt;場所&gt; さいたま市立野田小学校プール</p> <p>&lt;利用できる種目&gt; スケートボード、BMX インラインスケート</p> <p>&lt;利用料金&gt; 無料</p> <p>&lt;利用できる日&gt; 土曜日・日曜日・祝日等</p> <p>&lt;時間&gt; 午前9時から午後5時まで</p> <p>&lt;対象年齢&gt; 3歳以上</p> 	<p>○開催サポート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ施設の情報提供</li> <li>・観光スポットに関する情報提供</li> <li>・観光施設との調整</li> <li>・開催助成金制度(予算の範囲内)</li> <li>・飲食店などの専門業者の紹介</li> </ul> <p>○開催助成金の主な交付条件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内を会場とするもの</li> <li>・市外から相当数の集客が可能なスポーツイベント</li> <li>・経済波及効果等の調査に対して協力できるもの</li> <li>・さいたまスポーツコミッションの協力を得られていることを広報できるもの</li> </ul> <div> <div> <div>□ スポーツイベント誘致・支援</div> <div> <div>財政支援</div> <div>行政機関の調整</div> <div>関係企業の動員</div> <div>写真の提供・提供</div> <div>観光情報の支援</div> <div>広報・PR支援</div> </div> </div> <div> <div>SSC誘致大会規模別一覧</div> <table> <tr> <th rowspan="2">年度</th><th colspan="4">規模</th><th rowspan="2">合計</th></tr> <tr> <th>関東</th><th>全国</th><th>国際</th><th>その他</th></tr> <tr><td>H23</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>10</td><td>12</td></tr> <tr><td>H24</td><td>7</td><td>8</td><td>2</td><td>14</td><td>31</td></tr> <tr><td>H25</td><td>12</td><td>10</td><td>1</td><td>11</td><td>34</td></tr> <tr><td>H26</td><td>10</td><td>11</td><td>0</td><td>18</td><td>39</td></tr> <tr><td>H27</td><td>12</td><td>8</td><td>2</td><td>19</td><td>41</td></tr> <tr><td>H28</td><td>16</td><td>8</td><td>1</td><td>21</td><td>45</td></tr> <tr><td>H29</td><td>11</td><td>11</td><td>0</td><td>17</td><td>39</td></tr> <tr><td>H30</td><td>11</td><td>8</td><td>3</td><td>16</td><td>38</td></tr> <tr><td>R1</td><td>14</td><td>14</td><td>0</td><td>17</td><td>45</td></tr> <tr><td>R2</td><td>18</td><td>11</td><td>0</td><td>19</td><td>48</td></tr> <tr><td>R3</td><td>19</td><td>7</td><td>0</td><td>22</td><td>48</td></tr> <tr><td>R4</td><td>12</td><td>13</td><td>1</td><td>25</td><td>51</td></tr> <tr><td>R5</td><td>10</td><td>12</td><td>1</td><td>25</td><td>48</td></tr> <tr><td>合計</td><td>152</td><td>122</td><td>11</td><td>234</td><td>519</td></tr> </table> </div> </div>	年度	規模				合計	関東	全国	国際	その他	H23	1	1	0	10	12	H24	7	8	2	14	31	H25	12	10	1	11	34	H26	10	11	0	18	39	H27	12	8	2	19	41	H28	16	8	1	21	45	H29	11	11	0	17	39	H30	11	8	3	16	38	R1	14	14	0	17	45	R2	18	11	0	19	48	R3	19	7	0	22	48	R4	12	13	1	25	51	R5	10	12	1	25	48	合計	152	122	11	234	519
年度	規模				合計																																																																																											
	関東	全国	国際	その他																																																																																												
H23	1	1	0	10	12																																																																																											
H24	7	8	2	14	31																																																																																											
H25	12	10	1	11	34																																																																																											
H26	10	11	0	18	39																																																																																											
H27	12	8	2	19	41																																																																																											
H28	16	8	1	21	45																																																																																											
H29	11	11	0	17	39																																																																																											
H30	11	8	3	16	38																																																																																											
R1	14	14	0	17	45																																																																																											
R2	18	11	0	19	48																																																																																											
R3	19	7	0	22	48																																																																																											
R4	12	13	1	25	51																																																																																											
R5	10	12	1	25	48																																																																																											
合計	152	122	11	234	519																																																																																											

# アリーナ・スタジアムの建設状況

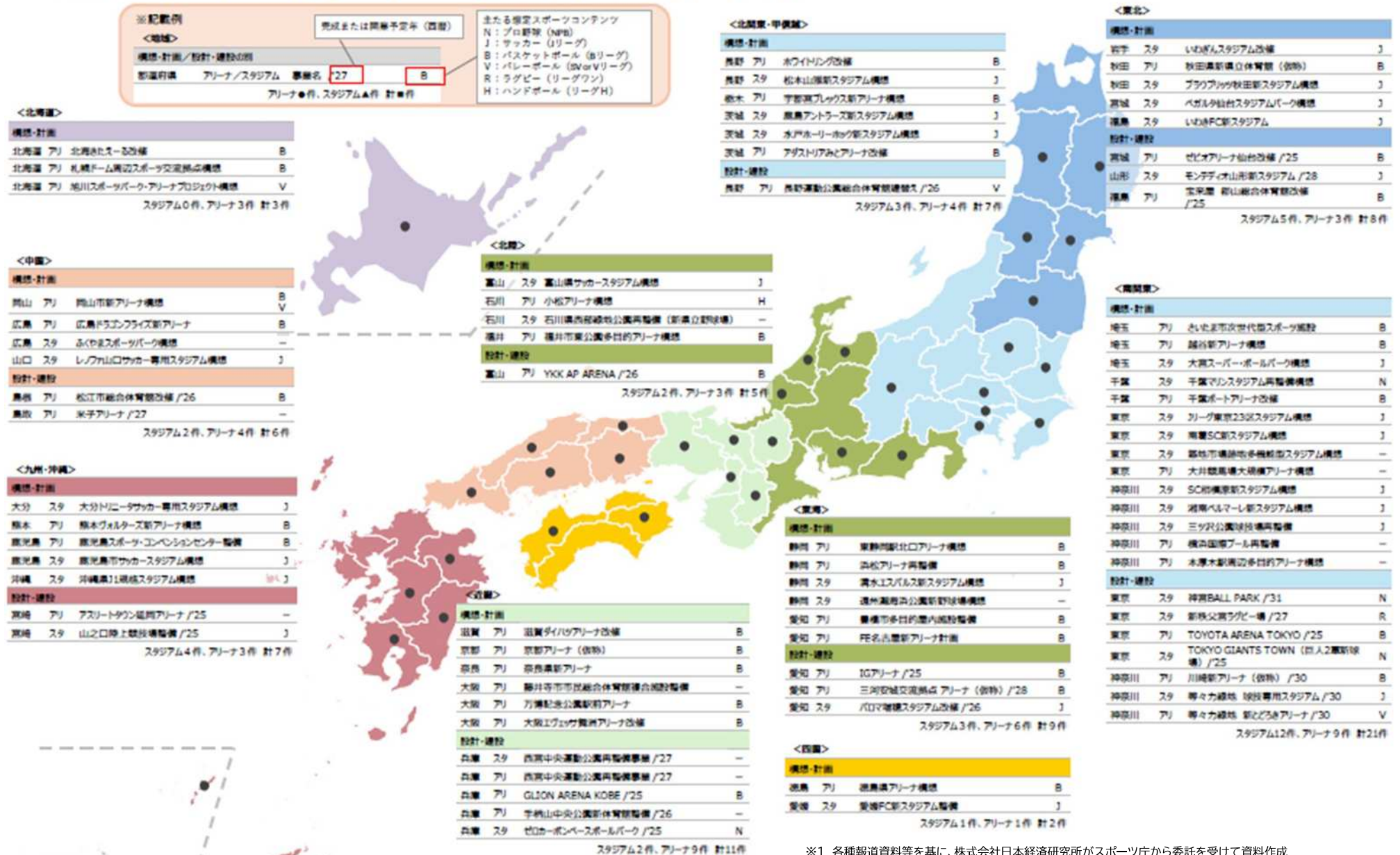
(令和7年1月時点)

場所	施設名	開業日（予定）	収容人数（人）	備考
北海道北広島市	エスコンフィールド HOKKAIDO	2023年3月14日	35,000	総工費 600億円
愛媛県今治市	アシックス里山スタジアム (今治里山スタジアム)	2023年1月29日	5,300	総事業費 40億円
群馬県太田市	OPEN HOUSE ARENA OTA (太田市総合体育館)	2023年4月6日	5,000	総事業費 83億円
佐賀県佐賀市	SAGA アリーナ	2023年5月13日	メインアリーナ：8,400 サブアリーナ：450	整備費 257億円
広島県広島市中区	エディオンピースウイング広島 (HIROSHIMAスタジアムパーク)	2024年2月1日	28,500	総事業費 286億円
長崎県長崎市	長崎スタジアムシティ	2024年10月14日	スタジアム：20,000 アリーナ：6,000	全体事業費 1,000億円
神奈川県横浜市西区	Kアリーナ横浜 【音楽専用アリーナ】	2023年9月29日	20,000	建設費 480億円
神奈川県横浜市中区	横浜BUNTAI (横浜文化体育館)	2024年4月6日	5,000	整備費 221億円
千葉県船橋市	LaLa arena TOKYO-BAY	2024年5月29日	10,000	民間事業であり 非公開
兵庫県神戸市中央区	ジーライオンアリーナ神戸	2025年4月（予定）	10,000	民間事業であり 非公開 (土地は神戸市所有)
岡山県岡山市	岡山新アリーナ構想	2031年（予定）	10,000	〔 総事業費 280億円 〕



# 全国のスタジアム・アリーナの新設・建替構想(2025年1月時点)

全国でスタジアム34件、アリーナ45件の計画が進行している。



※1 各種報道資料等を基に、株式会社日本経済研究所がスポーツ庁から委託を受けて資料作成  
※2 規模が一定の基準を満たし、スポーツ興行等による数千人~数万人規模の定期的な集客を想定する施設を条件に抽出  
提供元: Bing © GeoNames, Microsoft, Zenrin  
© 2013-2024 パワポ素材のばわぼすけ



## 民間出資の他都市事例①

### 北海道ボールパーク Fヴィレッジの事例

#### 施設の概要

- ・所在地 北海道北広島市
- ・敷地面積：約32ha（Fヴィレッジ全体）
- ・エスコンフィールド敷地面積：5ha
- ・収容人数：3万5,000人

#### エスコンフィールドの特徴

- ・球場内バリアフリー、360度回遊型
- ・通年利用できるエリア
- ・世界最大級の大型ビジョンを2台設置
- ・日本最大級の子どもの遊び場
- ・日本初の開閉屋根付き天然芝球場
- ・フィールドが一望できるレストラン など

#### 目指す方向性

- ・五感で心地よさを感じることができる、  
プレイヤーファースト、ファンファーストの  
両立を目指す



出所) エスコンフィールドHP (<https://www.hkdballpark.com/about/esconfield/>)

## 民間出資の他都市事例②

長崎スタジアムシティ（2024年10月14日オープン）

### ○プロジェクト概要

- ・ ジャパネットグループのリージョナルクリエイション長崎が、サッカースタジアムを中心にアリーナ・ホテル・商業施設・オフィスなどの複合施設を民間主導で開発するプロジェクト
- ・ 2018年に「長崎・幸町工場跡地活用事業 土地活用事業者募集」に応募し、JR長崎駅から徒歩約10分と長崎市の中心地に約7.5ha（東京ドーム1.5個分）の土地を購入
- ・ 総事業費は約1,000億で、13,000人の雇用創出を見込む
- ・ プロサッカークラブ「V・ファーレン長崎」のホームとなる約20,000席を収容できるスタジアム
- ・ プロバスケットボールクラブ「長崎ヴェルカ」のホームとなる約6,000席を収容できるアリーナ
- ・ 日本初のサッカースタジアムビューホテル
- ・ 食べる・学ぶ・遊ぶが詰まった楽しさあふれる商業施設
- ・ 国内外の企業を誘致する長崎県内最大級のオフィス

### ○事業のビジョン

- ・ 弊社創業の地である長崎において、スタジアムを中心とした新しいまちから新しい長崎の風景をつくりだし、生活をより豊かにすることで長崎全体が活性化され、ワクワクで溢れるプロジェクトの実現

### ○事業のコンセプト

- ・ 長崎の魅力・価値を地域一体となって磨き上げ、長崎に住む方、長崎を訪れる方に感動と誇りあふれる「今」を届ける



## 民間出資の他都市事例②

### ○施設概要（全体）

- ・敷地面積 約75,000m<sup>2</sup> ・建築面積 約44,600m<sup>2</sup> ・延べ面積 約194,000m<sup>2</sup> ・延べ床面積 183,373m<sup>2</sup>
- ・建物高さ 約60m（最高部の高さ 約65m） 駐車台数 1,100台
- ・事業主 ジャパネットホールディングス
- ・基本設計者 環境デザイン研究所、安井建築設計事務所共同事業体
- ・コンストラクションマネジメント 三菱地所設計
- ・実施設計者 竹中工務店、戸田建設、松尾建設
- ・企画・運営者 リージョナルクリエーション長崎
- ・全体のテナント数 60～70店舗
- ・年間利用者数 約850万人



長崎スタジアムシティ公式HP (<https://www.nagasaki stadiumcity.com/>)

## 民間出資の他都市事例②

### ○PEACE STADIUM Connected by SoftBank (ピース スタジアム コネクテッド バイ ソフトバンク)

- ・ JリーグのV・ファーレン長崎の本拠地となるサッカー専用スタジアム
- ・ ピッチから観客席まで約5mと日本一近い臨場感が特徴
- ・ 収容 約20,000席
- ・ 面積 約35,000m<sup>2</sup>
- ・ 全席屋根で覆われており、雨天時でも快適に観戦可能



### ○HAPPINESS ARENA (ハピネスアリーナ)

- ・ 音楽コンサートや展示・物産展等での使用も可能な多機能・可変型の施設
- ・ メインアリーナの屋上：フットサルコート
- ・ サブアリーナの屋上：3人制バスケットボールコートを設置（利用想定人数はいずれも約100人を想定）
- ・ ホームチームは、プロバスケットボールの長崎ヴェルカ（B1）
- ・ 収容 約6,000席
- ・ 面積 約27,400m<sup>2</sup>
- ・ 実施可能な競技：バスケットボール・バレーボール・フットサル・テニス・バドミントン・3x3・卓球・ハンドボール・武道/格闘技・スポーツクライミング 等
- ・ 約2,300m<sup>2</sup>のサブアリーナ、クラブハウスを併設し、練習場や物販に利用



長崎スタジアムシティ公式HP (<https://www.nagasaki-stadiumcity.com/>)



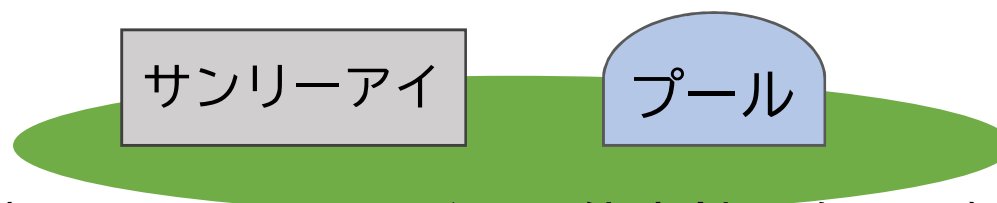
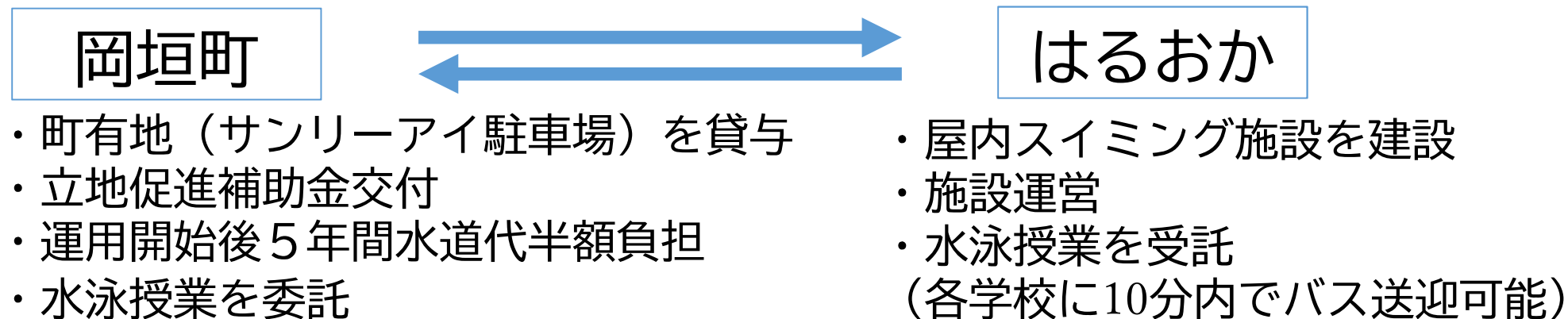
## 他都市事例（民間との連携スキーム）

岡垣町が「はるおか」（スイミングスクール運営会社）と連結協定締結  
町有地に屋内プールを建設（令和7年5月開校予定）

### 【課題】

- ・ 学校プールの老朽化
- ・ 修繕工事に必要な膨大な予算確保
- ・ プール新設を望む町民の声

### 【スキーム】



既存施設（サンリーアイ：ジム・体育館を有する）との連携

# APPENDIX



# 北九州市のスポーツの歴史的背景

・企業スポーツを中心に多くのスポーツがさかんに行われおり、プロスポーツチームも多彩

## 企業スポーツ

- 昭和の時代は、八幡製鐵を中心に、企業スポーツが北九州市のスポーツシーンを牽引
  - 1964年の東京オリンピックでは、八幡製鐵から陸上、水泳、サッカー、バレーボールに計18名の選手を送り込み、水泳やバレーボールのメダル獲得に貢献
  - メキシコ五輪では、戸畑中央高校出身で八幡製鐵所属の君原健二がマラソンで銀メダルを獲得
  - 陸上: 安川電機陸上部や黒崎播磨陸上競技部は近年も全日本実業団対抗駅伝での上位入賞やオリンピック選手(中本健太郎)を輩出するなど活躍
  - 社会人野球: 八幡製鐵と門司鉄道管理局(「製門戦」)が牽引
- リストラなどにより企業スポーツはかつてよりは衰退
  - 社会人野球の新日鐵八幡は2003年限りで廃部

## 強豪校、スポーツクラブ

- バドミントンや卓球は、北九州市内や周辺に指導力の高い学校やスポーツクラブが存在
  - バドミントンは、九州国際大学付属高校(八幡東区)が強豪で、インターハイの常連
    - ・ 2018年時点で22年連続35回目のインターハイ。潮田玲子や池田信太郎などの母校
    - ・ 平成10年、11年高校総体優勝、平成24年全国高校選抜バドミントン大会優勝
  - 卓球は各地区のクラブで好選手を育成
    - ・ 八幡西区の石田卓球クラブは岸川聖也、早田ひな等を輩出
    - ・ また、希望が丘高校(福岡県中間市)はインターハイに男子16年、女子12年連続出場中
  - 高校野球では、九州国際大学付属高校が春の選抜準優勝(平成23年)
  - 高校駅伝で、北九州市立高校(旧戸畑商業高校)が平成15年以降全国高校女子駅伝11回出場(最高4位)

## プロ・トップスポーツチームの集積

- ギラヴァンツ北九州(サッカー): サッカーJ3リーグに所属し、ミクニワールドスタジアム北九州がホームスタジアム  
J2リーグ5位が過去最高順位。
- ボルクヴァレット北九州(フットサル): 北九州市を本拠地とするフットサルチーム。日本フットサルリーグディビジョン1に所属
- 北九州下関フェニックス(野球): 野球独立リーグ、九州アジアリーグに所属。設立者は堀江貴文氏
- Takagi北九州Water Wave(ソフトボール)(株)タカギソフトボール部で、前身は東芝北九州工場の女子ソフトボールチーム。2022年よりJDリーグに参戦

## 公営競技

- 競輪: 旧小倉市は競輪の発祥地。北九州メディアドームは1998年にオープン。吉岡稔真などのトップ選手を輩出
- 競艇: 若松競艇が1952年に開設。植木通彦などのトップ選手を輩出

# 北九州市にゆかりのある著名スポーツ選手

- ・様々な競技で著名アスリートを輩出している
- ・最近では早田ひな選手をはじめとしたキタキュウオリンピックの活躍が注目され、街を大いに盛り上げた

## 北九州市スポーツ大使

サッカー	<ul style="list-style-type: none"><li>・池元 友樹(元プロサッカー選手)</li><li>・永井 謙佑(プロサッカー選手)</li><li>・東 慶悟(プロサッカー選手)</li><li>・本田 泰人(元プロサッカー選手)</li></ul>
野球	<ul style="list-style-type: none"><li>・今永 昇太(MLB選手)</li><li>・柴原 洋(元プロ野球選手)</li><li>・カズ山本(元プロ野球選手)</li></ul>
卓球	<ul style="list-style-type: none"><li>・早田 ひな(卓球選手)</li><li>・岸川 聖也(元卓球選手)</li></ul>
バドミントン	<ul style="list-style-type: none"><li>・池田 信太郎(元バドミントン選手)</li><li>・潮田 玲子(元バドミントン選手)</li></ul>
マラソン	<ul style="list-style-type: none"><li>・中本 健太郎(元マラソン選手)</li><li>・君原 健二(元マラソン選手)</li><li>・金 哲彦(プロランニングコーチ)</li></ul>
競輪	<ul style="list-style-type: none"><li>・北津留 翼(競輪選手)</li><li>・吉岡 稔真(元競輪選手)</li></ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"><li>・内村 航平(元プロ体操選手)</li><li>・竹下 佳江(元バレーボール選手)</li><li>・西山 将士(元柔道家)</li><li>・田中(入江) ゆき(レスリング選手)</li><li>・太田 和臣(元ウエイトリフティング選手)</li><li>・植木 通彦(元競艇選手)</li><li>・福井 烈(元プロテニス選手)</li><li>・山田 章仁(ラグビー選手)</li><li>・箕内 拓郎(元ラグビー選手)</li></ul>

## 北九州市ゆかりのパリ五輪・パラリンピック出場選手

早田 ひな	卓球
松山 奈未	バドミントン
野田 紗月	アーチェリー
大畑 歩夢	サッカー
原田 周大	ボクシング
藤井 菜々子	競歩
柳井 綾音	競歩
垣田 真穂	自転車トラックレース
福田 果音	パラ水泳
藤野 遼	パラバドミントン
古川 佳奈美	パラ卓球



今永 昇太  
(MLB選手)



早田 ひな  
(卓球選手)

# 北九州市のスポーツにおける強み／資産

・北九州市には、プロ・トップスポーツや企業スポーツのほか、スポーツクラブや強豪校等の活動も盛ん

	概要	ハード	ソフト	人材
サッカー (ギラヴァンツ北九州)	<ul style="list-style-type: none"><li>2024年シーズンはJ3で7位</li><li>営業収入は約10億円で推移、23年度は約1億円の営業損失</li><li>市の予算額は、95百万円(補助金35百万円、ホームタウン推進事業(市民招待など)40百万円、広報20百万円)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>北九州スタジアム(ミクニワールドスタジアム)を北九州市が2017年に建設<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 収容人数15,000人</li><li>➤ 平均観客人数は24年は4,649人</li></ul></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>J3のホームゲーム19試合をミクニワールドスタジアムで開催</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>池元 友樹</li><li>永井 謙佑</li><li>東 慶悟</li><li>本田 泰人</li></ul>
企業スポーツ プロスポーツ	<ul style="list-style-type: none"><li>八幡製鐵を中心に、企業スポーツが牽引したが、リストラなどにより企業スポーツはかつてよりは衰退</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>ボルクバレット北九州(F1リーグ:フットサル)</li><li>日本製鉄堺ブレイザーズ(SVリーグ:バレーボール)</li><li>ライジングゼファーフクオカ(B2リーグ:バスケットボール)</li><li>takagi 北九州 Water Wave(JDリーグ:ソフトボール)</li><li>北九州下関フェニックス(九州アジアリーグ:野球)</li><li>安川電機陸上部、黒崎播磨陸上部 など</li></ul>		<ul style="list-style-type: none"><li>君原 健二 (元マラソン選手)</li><li>中本 健太郎 (元マラソン選手)</li></ul>
スポーツクラブ・強豪校	<ul style="list-style-type: none"><li><u>卓球</u>や<u>バドミントン</u>をはじめ、オリンピック選手を輩出</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>北九州市立総合体育館で全日本大会や国際大会を開催</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>石田卓球クラブ、希望が丘高校(卓球)</li><li>九州国際大学附属高校(バドミントン)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>石田卓球N+は早田ひなや岸川聖也を輩出</li><li>九国大付属校は潮田玲子や池田信太郎を輩出</li></ul>
アーバン スポーツ	<ul style="list-style-type: none"><li>近年<u>スケボー</u>や<u>ブレイキン</u>、<u>パルクール</u>などのアーバンスポーツを強化中</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>小倉のスケボーパークには年間1.4万人が集う(市が4,800万円を投資)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>ブレイキンで日本初の国際大会を2023年に開催、2024年はパルクール世界選手権を開催</li></ul>	
その他		<ul style="list-style-type: none"><li><u>競輪</u>や<u>競艇</u>などの公営競技の施設を有する</li><li>北九州市民球場でソフトバンクの試合を開催(年2試合)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>バレーボールネーションズリーグや卓球WTT男女ファイナルズ等の大規模国際大会の開催</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>今永昇太、内村航平、吉岡稔真(競輪)、植木通彦(競艇)なども北九州市スポーツ大使</li></ul>



# 北九州市のプロ・トップスポーツチーム等

- ・北九州市をホームタウン(準ホームタウン)とするチームが多数存在し、市民にトップレベルのスポーツを観る・親しむ機会を提供
- ・全国的に有名な企業スポーツチームやスポーツ強豪校が存在

◇ギラヴァンツ北九州



◇ボルクバレット北九州(フットサル)



◇北九州下関フェニックス(野球)



◇ライジングゼファー  
フクオカ(バス)



◇敬愛高校(金鷲旗高校柔道大会優勝)



◇takagi北九州Water Wave(ソフトボール)



◇日本製鉄堺ブレーザーズ(バレーボール)



◇九州国際大学  
付属高校  
(甲子園出場)



◇黒崎播磨  
(駅伝)



◇北九州市立高校  
(高校駅伝)





# 世界選手権開催経験における国内外での高い評価

・北九州市の豊富な誘致実績や大会開催ノウハウの蓄積を生かし、「エコフレンドリーなスポーツ大会」といった特色ある大会を実現するなど、北九州市の持つ大会運営サポートは国内外から高く評価されている。

▼WDSF Breaking for Gold  
World Series in 北九州



▼バレーボールネーションズリーグ2024 福岡大会



▼ツール・ド九州2024 小倉城クリテリウム



▼第2回FIGパルクール世界選手権北九州



▼WTTファイナルズ福岡



# 令和6年度 北九州市で開催した大規模国際スポーツ大会

・バレーボールネーションズリーグやツール・ド・九州クリテリウム、パルクール、卓球WTTなど多彩な大規模スポーツ大会がまちの賑わいを創出

年月	大会名	開催地	予算額	来客人数	その他備考
R6/4月	太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ 2024(ラグビー女子7人制)	北九州スタジアム	—	1日目:1,524人 2日目:1,334人 合計:2,858人	・女子7人制ラグビーの国内トップを競う大会で、国内で開かれる4大会のうちの第1戦で、1日目はプール戦、2日目は順位決定トーナメント戦を行う
R6/6月	買取大吉バレーボールネーションズリーグ 2024 福岡大会	西日本総合 展示場新館	—	男子大会 45,129名 女子大会 39,392名  計 84,521名	・オリンピック、世界選手権に並ぶ国際大会で、男子は予選ラウンド第2週、女子は予選ラウンド最終の第3週で開催。女子はこの大会でパリオリンピックの出場権を獲得・男女共にファイナルラウンドで銀メダルを獲得し、男子は主要国際大会で47年ぶりの銀メダル
R6/8月	ラグビー女子日本代表「太陽生命 JAPAN RUGBY CHALLENGE SERIES 2024」 (対アメリカ代表)	北九州スタジアム	—	2,300人	・日本の世界ランキングは11位、アメリカは世界ランキング7位 ・地元選手では、長田いろは選手(ランカー、キャプテン、門司学園高校卒業)、吉村乙華選手(ロック、東筑高校卒業)
R6/9月	2024体操日本GALA in 北九州	北九州市立 総合体育館	200万円	2,866人	・2024パリオリンピックの終了後、日本代表選手らによる、全国からの応援への感謝、競技の普及、選手の価値向上などを趣旨としたイベント
R6/10月	ツール・ド・九州 2024(小倉城クリテリウム)	小倉城周回	1,500万円	14,000人	・昨年度に引き続き、2年連続の開催
R6/11月	第2回FIGパルクール世界選手権	勝山公園内 特設会場	1億円	3日間合計 30,000人	・第1回の東京開催に次ぎ、西日本初の世界大会開催
R6/11月	卓球WTT男女ファイナルズ福岡2024	北九州市立 総合体育館	—	15,245人	・男女世界ランキングトップ16名とダブルス8組が年間王座をかけて争うシーズンファイナル(九州初開催)



# スポーツ施設の利用・収支状況

施設種別	施設数	①利用者数（人）	②収入（千円） 使用料等収入	③支出（千円） 維持管理費用	収支率（%） ②÷③	一人当経費（円） ③÷①
体育館	17	884,144	128,345	644,703	19.9	729
武道場	13	161,192	16,348	37,838	43.2	235
野球場	16	287,295	22,116	159,810	13.8	556
庭球場	13	242,694	50,528	81,004	62.4	334
陸上競技場	2	172,030	6,435	95,523	6.7	555
運動場・球技場	11	502,338	24,497	151,132	16.2	301
屋内プール	5	232,279	40,480	241,435	16.8	1,039
屋外プール	13	116,599	15,464	175,686	8.8	1,507

出典：公共施設白書（令和5年度状況）

ただし、志井ファミリープール（屋外プール）を除く

スポーツ施設の機能・サービス・安全性などを  
**持続可能**なものとするため



方向性

集約化・多機能化(多目的・多種目)  
高付加価値化・利便性向上

# スポーツ施設の整備の方向性

## これまでのスポーツ施設の実績・取組

### 浅生スポーツセンター(H28) 9施設を集約済

- 戸畑体育館 ○ 戸畑体育館庭球場 ○ 西戸畑体育館 ○ 戸畑庭球場 ○ 戸畑柔剣道場
- 岩ヶ鼻プール ○ 夜宮弓道場 ○ 仙水児童プール ○ 西戸畑児童プール





# スポーツ施設の整備の方向性

## 現在計画中:大里地域スポーツ複合施設 3施設を集約予定

○ 門司体育館(S55) ○ 大里プール(S46) ○ 大里柔剣道場(S50) ※ 門司生涯学習センター大里分館

